

坂城町

平成の 産業史

受け継がれる
ものづくりのDNA

坂城町
平成の産業史

長野県坂城町

坂城町 平成の 産業史



長野県 坂城町

<https://www.town.sakaki.nagano.jp>

坂
城
町

平
成
の

受け継がれる
ものづくりのDNA

産
業
史



発刊にあたって

山村 弘

坂城町長

「令和」という新時代が幕開けしてから、早いもので3年の月日が経ちました。変化のスピードが著しい昨今において、あらためて、平成期における坂城町の歩みを振り返るとともに、町内産業の成長の記録を残し、後世に伝えていくため「坂城町平成の産業史」を発刊する運びとなりました。

昭和63年、坂城町と坂城町商工会では、昭和期における当町の工業発展の歴史を記した「テクノハートさかき 坂城町工業発達史」を発刊いたしました。その続編となる本書では、工業のほか商業、農業、工芸にも対象の幅を広げ、平成期において第一線で活躍された経営者の皆様に、経営あるいは現場の視点から30余年の歴史を思い返していただき、取材を通して伺ったお話を本書にまとめました。

本来であれば、町内の産業発展にご尽力された全ての皆様の取組みをご紹介するべきところですが、紙面の都合上、叶わなかったことをご容赦ください。

さて、平成という時代は、バブル崩壊以降の経済の停滞により、しばしば「失われた時代」と評されますが、グローバル化や度重なる経済危機の荒波を乗り越えた企業・事業者は、現在において大きな飛躍を遂げています。特に製造業において、バブル崩壊やリーマン・ショックの影響は、非常に深刻であったものの、各社とも独創的な技術のもとに付

加価値の高いものづくりによって、徐々に回復を果たし、県下有数の「ものづくりのまち」として、確固たる地位を築き上げています。

また、「平成の大合併」により、多くの市町村が合併の道を進むなか、坂城町は工業を中心とする力強い産業に支えられ、独立した歴史を積み重ね続けています。「ものづくりのまち坂城」をこうして振り返ることができるのも、日進月歩の技術環境に対応し、不断の努力を続けられた企業・事業者をはじめ、町内産業の発展に尽くされた皆様お一人おひとりの力によるものです。

令和を迎えたいま、坂城の産業・ものづくりは再び大きな岐路に直面しており、混迷を深める世界情勢や、未だ終息の見えない新型コロナウイルス感染症は、経済活動に大きな影響を及ぼしています。また、環境問題や相次ぐ自然災害への対策を講じて、持続可能な社会を創造していくうえで、産業・ものづくりに携わる企業・事業者が果たすべき社会的役割も増しています。町といたしましては、坂城町商工会や、（公財）さかきテクノセンターをはじめとする関係機関と連携を図り、引き続き町内産業の支援に努めてまいります。

結びに、取材にご協力いただきました皆様には、厚く御礼申し上げますとともに、坂城の産業・ものづくりを支える企業・事業者、関係機関の益々のご発展と関係各位のご活躍を祈念し、発刊の言葉といたします。



発刊に寄せて

吉 沢 正

長野県長野地域振興局長

この度は、本産業史の発刊、誠におめでとうございます。発刊にあたり、ご尽力された坂城町はじめ関係者の皆様に、心より敬意を表します。

さて、平成の30年間は、国内はもとより本県にとつてまさに激動の時代でした。バブル経済の崩壊に始まり、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大きな自然災害の発生、リーマンショックや欧州債務危機等の世界規模の金融危機など、社会や経済が大きな変革に直面しました。

また、中国やインド等のアジア諸国の経済成長、ブラジルやロシア等の新興国の台頭による経済のグローバル化、スマートフォンをはじめとする情報通信技術の急速な進歩、更に人口減少や少子高齢化による労働力の減少など、日本や本県産業を取り巻く環境は大きく変化してきました。

そのような経済環境の中で、坂城町では、商工業における事業所数は減少したものの、従業員1人あたり粗付加価値生産額は約17%、1人あたり年間商品販売額は約20%増加しています。

これは、情報通信等の新技術の導入や国内外の新市場開拓など、各事業者のたゆまぬ経営努力はもとより、坂城町をはじめ、坂城町商工会や（公財）さかきテクノセンター等の関係機関の皆様の積極的なご支援の賜物であると考えております。

県では、国内外の経済環境や技術動向等をふまえ、総合5カ年計画や産業振興プラン、産業投資応援条例等に基づき、中長期的な視点で様々な産業振興施策を実施してきました。

特に、坂城町工業の技術高度化や集積活性化等を図るため、平成5年に設置されたさかきテクノセンターの整備に当たったの補助や資金の貸付、各種の試験評価設備導入への支援を行うとともに、事業者の新技術・新製品開発等への補助や融資、工場立地への助成や課税免除、また、商業面では、地域発元気づくり支援金による坂城町特産のねずみ大根の消費拡大やワインの振興普及など、各分野において町産業の振興を支援させていただいています。

令和の新时代におきましても、SDGs（持続可能な開発目標）、脱炭素社会、デジタル技術による変革（DX）等の新たな要素を取り入れながら、本県はもとより坂城町の産業振興を図るため、関係機関と連携し、施策を実施してまいります。

結びにあたり、本産業史が過去に学び、また将来に向け、多くの方々へのメッセージとなることを期待しますとともに、坂城町の産業が益々発展されますことを祈念申し上げ、お祝いのあいさつとさせていただきます。



お祝いのことば

関 戸 啓 司

坂城町商工会長

ここに、「坂城町平成の産業史」が発刊されましたことは誠に意義深く、心よりお喜び申し上げます。坂城町の確実な「足跡」が残せました。

また、編纂にあたられた坂城町商工農林課の皆様のご努力に対し新ためて敬意を表するものです。

まさに「激動の平成」時代でした。バブル経済が崩壊し、政権がころころ変わり、不安定な国内事情に加え、「アメリカ同時多発テロ」や「リーマンショック」などの海外からの影響で坂城の産業界も大きく揺れ動きました。町内の多くの企業が海外へ進出せざるを得ず、産業構造も大きく変化しました。

そんな時代の中、やはり思い起こすのは「人」です。「坂城人」です。

今回編まれた内容には、どんな逆境にあってもへこたれず、知恵を絞って、また知恵ある人の助けを受けて、やりぬいてきた各産業界の「坂城人」の歴史がそこにあります。

平成時代の一番の変化は、スマホが普及し、一瞬のうちに全世界の人々とながるようになったことです。真偽不明の情報の中にうずまった時代ともいえます。

昭和の時代にはそれぞれの分野に「お手本」や「基本」がありました。それに沿って、それにどのくらい近づいたかで成長度合いが計

れたものでした。

高度に情報化し、グローバル化した平成時代の激変で、「答え」の無い時代になったのかもしれない。

商工会でも、昭和までは小規模事業者に対する「経営指導」を行ってきましたが、平成時代から「伴走型経営支援」という考えに変わりました。それぞれの分野、それぞれの企業にとって答えが一つではなく、単一的な指導はできなくなりました。各事業者様と一緒に考えていく時代になったのです。これからもその傾向は顕著になっていくと思われまます。

今はずでにSDGs（持続可能な社会）や地球温暖化対策に向けた取り組みが不可欠で、環境に配慮した各分野の対策が必要になっています。環境と産業という、相反する二つのものをひとつにしていく知恵と行動が求められているのかもしれない。

これからの各産業界を背負っていく坂城町の若い魂にとって、この「坂城町平成の産業史」は勇気を与えてくれる、良き参考書になると思います。

寄稿してくださった皆様、インタビューに真剣に取り組んでくださった各界の皆様にご心よりお礼申し上げます、お祝いの言葉とします。



坂城町平成の産業史 発刊にあたって

依 田 穂 積

公益財団法人さかきテクノセンター理事長

このたび、関係各位のご努力により「坂城町平成の産業史」が発刊されますことに、心よりお喜びを申し上げます。

「坂城テクノセンター」は、平成5年（1993）11月に坂城町工業の中核拠点として、全国でも例のない、町レベルでの産業技術高度化支援施設として開設いたしました。

坂城町は旺盛なもののづくりマイナンドを育む進取の企業風土により国有数の工業集積地として全国的に注目を集め、その工業力は地域経済の発展の原動力となっていました。様々な社会情勢の変化の中で、更なる発展のためには創造的な人材の育成、高度先端技術の研究開発、新分野の開拓などを積極的に展開するため、地域企業の出捐と町、県、国など多くの支援をもとに坂城町工業のシンボルとして坂城テクノセンターが誕生いたしました。

以来、産業技術の研究開発の支援を通じて、地域産業の活性化・自立化を図ることを目的に、産学官から専門家を招いての経営技術等の専門知識の習得を目指した人材育成支援、専門コオーディネータによる企業の研究開発、技術高度化支援、試験・検査技術の向上のための各種試験・計測機器の設置、企業間交流の推進等もののづくりに係る各種支援事業を実施し、バブル経済の崩壊やリーマンショックの経済変動、東西冷戦終結後の急速なグローバル化、インターネット技術の発展による高度情報化社会の進展など、「平成の時代」のすう勢を捉えた

事業を展開し、坂城町企業とともに歩みを進めて参りました。

特に、平成24年（2012）には、公益法人化へ移行することで、地域に密着した企業発展に寄り添った支援を行うとともに、平成28年（2016）にはコワーキングスペースの整備によるイノベーションセンターとしてのリニューアルオープンや樹脂積層、金属積層による3Dプリンタシステムの設置など先端的な技術の導入を図り、地域産業の高度化の牽引に努めております。

人口減少による少子高齢化社会の到来、SDGs（持続可能な開発目標）の達成や脱炭素社会に向けた取組み、IoTやAIなどを活用した企業活動のデジタル化など坂城町企業が直面する課題は、複雑かつ広範にわたり、その変化への転換スピードは加速度を増しており、地域内企業の当センターに寄せられる期待は大きくそのニーズはますます高まっております。

ここに発刊された「坂城町平成の産業史」に記された軌跡は、坂城町企業の未来への指針となり、激動の平成を駆け抜けた企業人・産業人の足跡を振り返り、その過程に思いを寄せることで、「持続可能なもののづくりのまちさかき」実現にむけて、坂城町企業の成長発展への決意を新たにするとところで。

結びに、坂城町並びに町産業のますますの発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

佐 藤 洋 子

テクノハート坂城協同組合 副理事長

この度「坂城町平成の産業史」発刊にあたりテクノハート坂城協同組合を代表して一言お祝いを申し上げます。

当組合は町内企業の相互発展を目的として、124社の加盟により平成4年に設立されました。

設立当初から業種・形態の違う企業間の交流を深め、協力体制を築くなかで異分野での技術を相互に交換しあい、技術者の交流をすすめ、共同研究・開発により新分野への拡大をはかるなど、初期の目的を達して参りました。

また、当時は好景が続く中、なかなか思うような人材が集まらず、人材の確保が各企業の大きな課題でございました。

個々の企業単独では、募集にも限界があり、坂城町企業への就職依頼のため、合同で全国各地を訪問する等の活動を実施致しました。

現在、坂城町と協定を結んでいる4大学（信州大学・長野大学・埼玉工業大学・金沢工業大学）とも連携を深めながら、それ以外の大学・短大等との多方面の窓口としても機能していきたいと思えます。

今後もし少子高齢化の流れの中、恒常的な人手不足の傾向は続いていくものと思われ、引き続き人材確保に対する支援に尽力して参ります。

それ以外にも物品の共同購入事業・共同受注事業を行い、協同組合としてのメリットを

追求して参りました。

最近では新型コロナワクチンの職域接種事業も行い、市町村接種の補完促進に寄与したところがございます。

また、「企業は人なり、企業が人をつくり、人が企業をつくる」との理念のもと、人材育成にも力をいれており、地元の高校・中学校等の教育機関等とも連携し、随時、町内企業の工場見学・就業体験等を企画しております。

今後も、地元企業を幅広く理解をしてもらい、将来は町を支える人材になっていただければと思います。

坂城町の製造業は、金属機械加工から、自動車関連や産業用機械、プラスチック関連へ、さらに電気、電子精密機械などへと、常に多極化し新しい価値を生み出してきました。

平成に入り、グローバル化の流れの中、海外に製造・サポート拠点が各地に設置され、世界のマーケットと向かい合うことになりました。

これから、企業を取り巻く経済環境の変化はますます激しくなっていくものと思われまます。

個々が持っている技術力を最大限に活かし、より発展した事業を進めていくことが私達の使命であります。

これからも組合員・企業の皆様の情報交換の場として、地域社会の発展に貢献したいと願っております。

これまで、組合活動に多大なるご協力・ご支援を頂き、改めて御礼申し上げますとともに、皆様の益々のご繁栄をご祈念いたします。